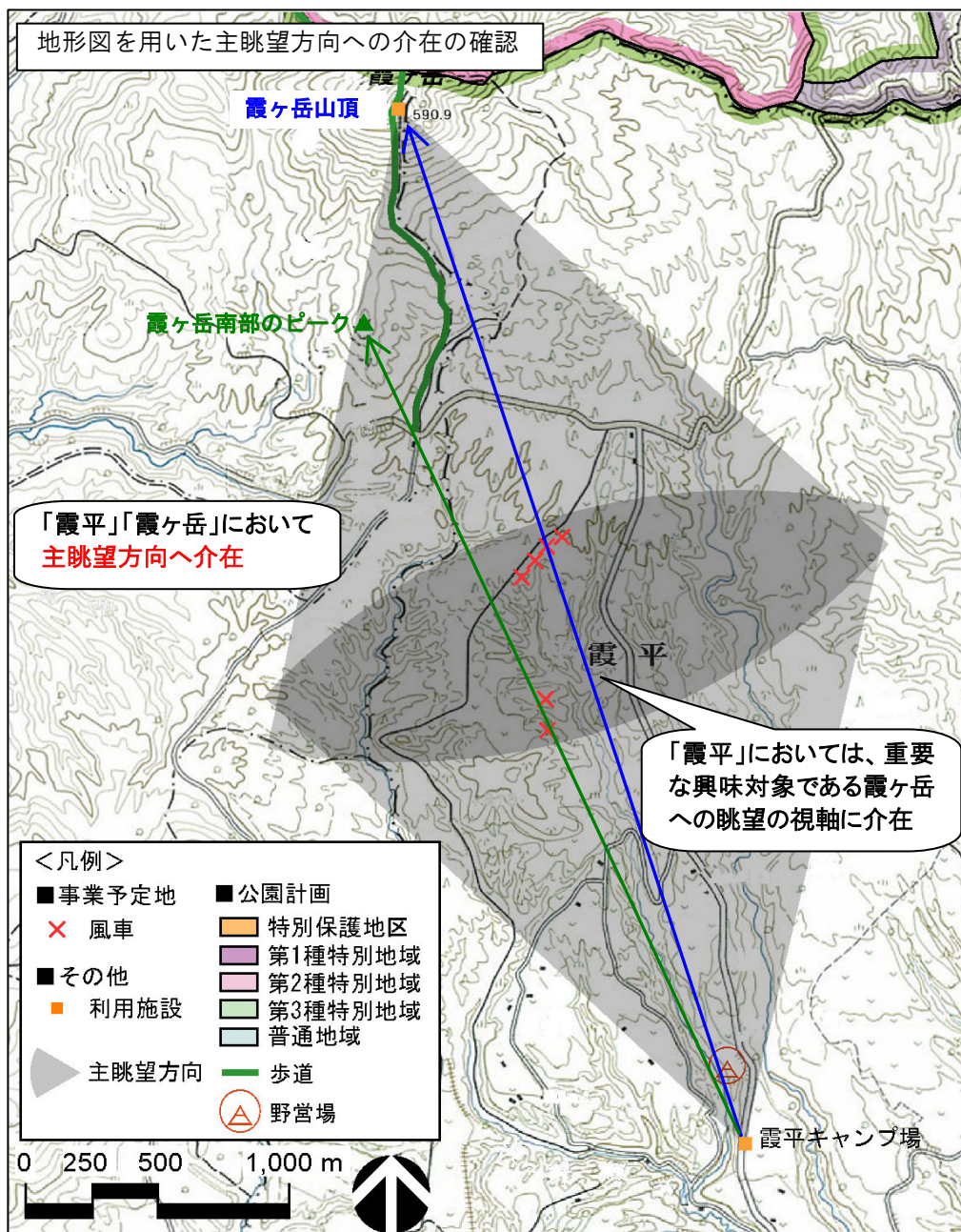


《ケース①》 「①霞平」「②霞ヶ岳」における眺望に対する支障程度の確認結果

地形図を用いた主眺望方向への介在の確認

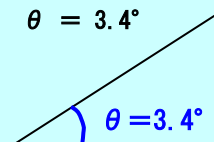


数式等を用いた見えの大きさと重要な眺望構成要素への介在の確認

■霞平から霞ヶ岳山頂方向の垂直見込み角算出結果

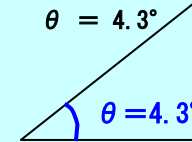
風車（北から2番目）

$$\begin{aligned}\tan \theta &= \text{風車高} + \text{標高差} / \text{距離} \\ &= 120\text{m} + (200\text{m} - 120\text{m}) / 3,375\text{m} \\ \theta &= 3.4^\circ\end{aligned}$$



霞ヶ岳

$$\begin{aligned}\tan \theta &= \text{標高差} / \text{距離} \\ &= (590\text{m} - 130\text{m}) / 6,206\text{m} \\ \theta &= 4.3^\circ\end{aligned}$$



⇒霞ヶ岳の垂直見込み角（ θ ）の方が風車より大きいため、この方向ではスカイラインに介在しない

■霞平から霞ヶ岳南部のピーク方向の垂直見込み角算出結果

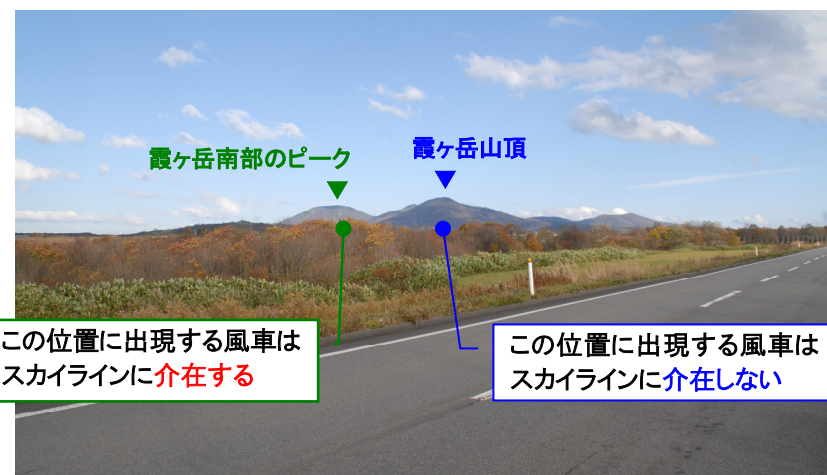
風車（最南端）

$$\begin{aligned}\tan \theta &= \text{風車高} + \text{標高差} / \text{距離} \\ &= 120\text{m} + (190\text{m} - 120\text{m}) / 2,475\text{m} \\ \theta &= 4.4^\circ\end{aligned}$$

霞ヶ岳西南のピーク

$$\begin{aligned}\tan \theta &= \text{標高差} / \text{距離} \\ &= (455\text{m} - 120\text{m}) / 5,201\text{m} \\ \theta &= 3.7^\circ\end{aligned}$$

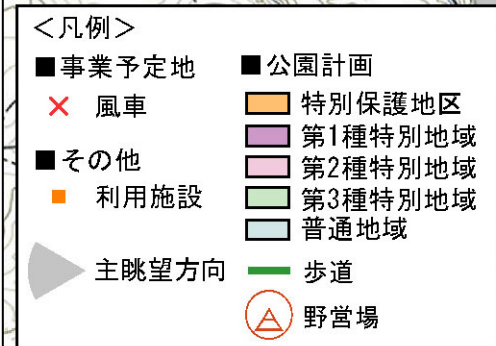
⇒風車の θ の方が大きいため、この方向ではスカイラインに介在する



解説

○霞ヶ岳から連続するスカイラインへ介在しない

発電出力	850kw	ハブ高	65m	ロータ径	50m	ロータ天端高	90m	基数	8基
------	-------	-----	-----	------	-----	--------	-----	----	----



作業解説

- ・(2)および(3)については、風力発電施設の視認可能性がある展望地がケース①と同様「①霞平」「②霞ヶ岳」の2地点のみであるため、作業を省略した。
- ・(4)として、ケース②の概略事業計画(案)について、地形図や現況写真等を用いて、風力発電施設の主眺望方向や眺望対象等への介在の有無、見えの大きさ等の確認を行った。
- ・確認の結果、以下の点から支障が生じる可能性は否定できないと判断した。

- 当該展望地からの主眺望方向に介在すること。
- 風車はいずれも当該展望地からの霞ヶ岳方面のスカイラインを切断せず、重要な眺望構成要素へは介在しないこと。
- 風車の垂直見込み角が過大でない(最大 2.0°) こと。

⇒確認結果について関係主体との合意形成が図った上で、概略事業計画を確定。

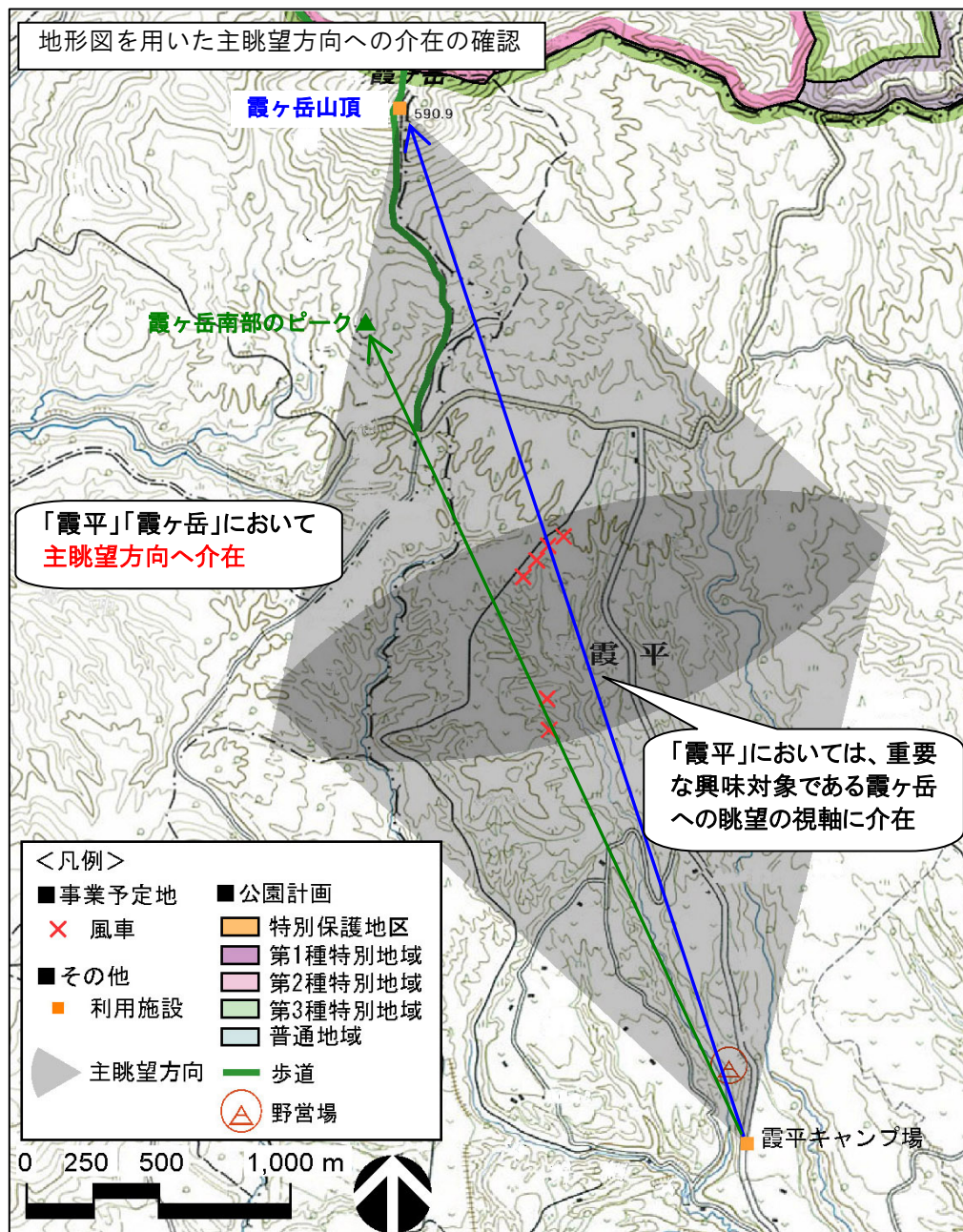
⇒「①霞平」「②霞ヶ岳」を保全対象展望地とした上で、「**第3段階：詳細事業計画の立案**」へ進む。

作業結果

- ・「①霞平」及び「②霞ヶ岳」における眺望に対する支障程度の確認について、次のように取りまとめた。

《ケース②》 「①霞平」「②霞ヶ岳」における眺望に対する支障程度の確認結果

地形図を用いた主眺望方向への介在の確認

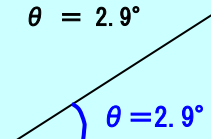


数式等を用いた見えの大きさと重要な眺望構成要素への介在の確認

■ 霞平から霞ヶ岳山頂方向の垂直見込み角算出結果

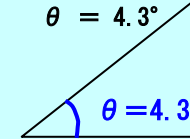
風車（北から2番目）

$$\begin{aligned}\tan \theta &= \text{風車高} + \text{標高差} / \text{距離} \\ &= 90\text{m} + (200\text{m} - 120\text{m}) / 3,375\text{m} \\ \theta &= 2.9^\circ\end{aligned}$$



霞ヶ岳

$$\begin{aligned}\tan \theta &= \text{標高差} / \text{距離} \\ &= (590\text{m} - 130\text{m}) / 6,206\text{m} \\ \theta &= 4.3^\circ\end{aligned}$$



⇒ 霞ヶ岳の垂直見込み角（ θ ）の方が風車より大きいため、この方向ではスカイラインに介在しない

■ 霞平から霞ヶ岳南部のピーク方向の垂直見込み角算出結果

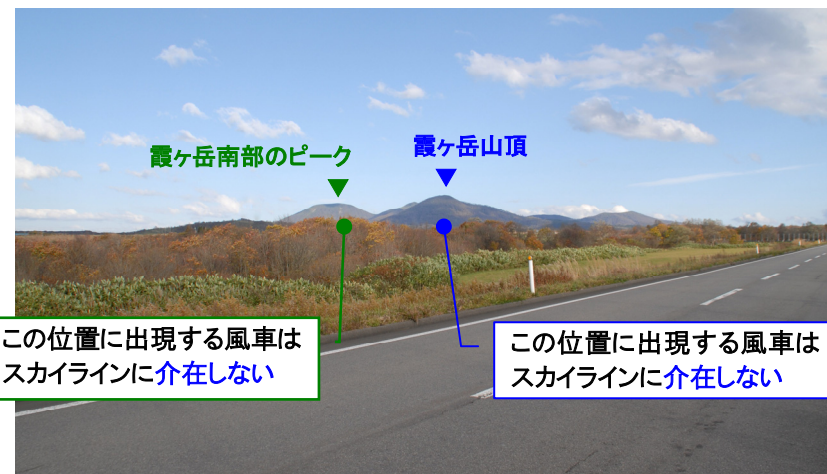
風車（最南端）

$$\begin{aligned}\tan \theta &= \text{風車高} + \text{標高差} / \text{距離} \\ &= 90\text{m} + (190\text{m} - 120\text{m}) / 2,475\text{m} \\ \theta &= 3.7^\circ\end{aligned}$$

霞ヶ岳西南のピーク

$$\begin{aligned}\tan \theta &= \text{標高差} / \text{距離} \\ &= (455\text{m} - 120\text{m}) / 5,201\text{m} \\ \theta &= 3.7^\circ\end{aligned}$$

⇒ 風車の θ の方が大きいため、この方向ではスカイラインに介在しない



参考

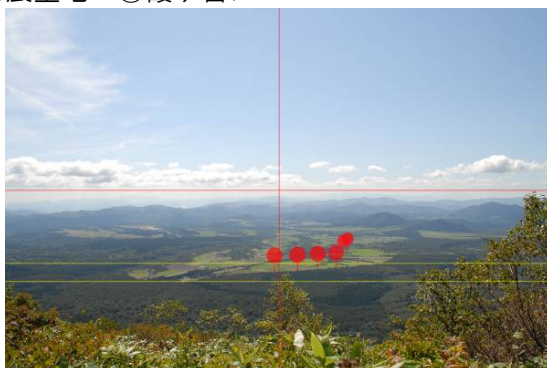
- ・なお、参考として、ケース①及び②の条件で設置した場合のフォトモンタージュを以下に示す。

■ケース①

<展望地 ①霞平>



<展望地 ②霞ヶ岳>



■ケース②

<展望地 ①霞平>



<展望地 ②霞ヶ岳>

